



学校だより

11 月 号

ともに学び、創り出し、行動する子 =輝く自分、輝く鶴小=

横浜市立 鶴ヶ峯小学校

(<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsurugamine/>)



運動会考

校長 荻原 規彦

児童から「校長先生、どうして徒競走がないんですか？やりたかったのに！」といわれました。「今年は徒競走の代わりに団体競技をすることにしました。友だち同士の絆を深めて欲しいからです。」と答えると、「お弁当を食べて、一日にすれば（徒競走も）できます！」（うん、なるほど）「確かにその通りだけど、お家の人と一緒に間隔をとって座って、しゃべらないでお弁当を食べるのは大変ですよ。だから、今年は午前中の開催にしました。」

午前中開催については、新型コロナウイルス感染症の予防のためですが、保護者の方からは、「コンパクトでいい」「昼食の場所取りや、家族分のお弁当作りをしなくていい」といったお話も聞かれます。

日本の運動会は元々訓練の一環として外国から入ってきたという説があり、それが形を変えて広がって全国どこの学校でも行われるようになったそうです。近年では、けがが多いという理由から組体操がなくなり、争いごとはいかなものかという理由から騎馬戦も少なくなってきました。本校のように、勝ち負けを争うより運動を楽しもうと「運動会」から「スポーツフェスタ」に変更しているところも見られるなど、時代に合わせて変わってきています。ではこれからの運動会・スポフェスはようになっていくのでしょうか。

私は徒競走が苦手だったので、「ビリにならないように」「ビリになっても大きく離されないように」ということだけ考えていました。ですから運動会にはあまりいい思い出がありません。当時は演技も間違えると何度もやり直しさせられ、苦手な子は泣き出してしまっていました。

鶴小のスポフェスでは、毎年6年生の「飛翔」が注目されます。6年生は「最高の演技をしたい！」と真剣に取り組み、鶴小の伝統の一つになっています。子どもたちにとって6年生の「飛翔」はあこがれであり、目標になっています。

毎年思うのですが、スポフェスの前と後とでは子どもたちの顔つきが違ってくるように感じます。演技の振りを覚え、曲にあわせ周りに合わせ、「心を一つに」にすることで気持ちの持ち方まで変わってきます。

校庭に目を向けると、大玉運びの練習をしています。大玉を落とさないようにシートを持って全力で走っていきます。上手にコーンを回るコツを先生たちから教わり、子どもたちは練習であっても結果に一喜一憂します。子どもたちにとっては、練習もまた楽しいものようです。

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、今の時代にあった運動会・スポフェスを模索していく時期になったと思います。変えるべきもの、変えないで続けるものを取捨選択して、さらに充実していければと考えています。

さあ明日はスポーツフェスタ、今年どんなドラマ・感動があるのでしょうか。今から楽しみです。



校内のカウントダウンの掲示